

学位	専門性	研究職への配属	推薦枠	キャリアビジョン
博士	◎	○	○	専門分野を極めたい
修士	○	○	○	専門知識を活かしたい 専門分野に携わりたい
学士	△	△	△	理系知識を活かしたい 理系分野にこだわらない

- ・ 研究者としての**国際的評価**は、博士が最も高い
- ・ **修士以上**を採用要件としている企業がある
- ・ **推薦枠**を**大学院生優先**にするケースがある

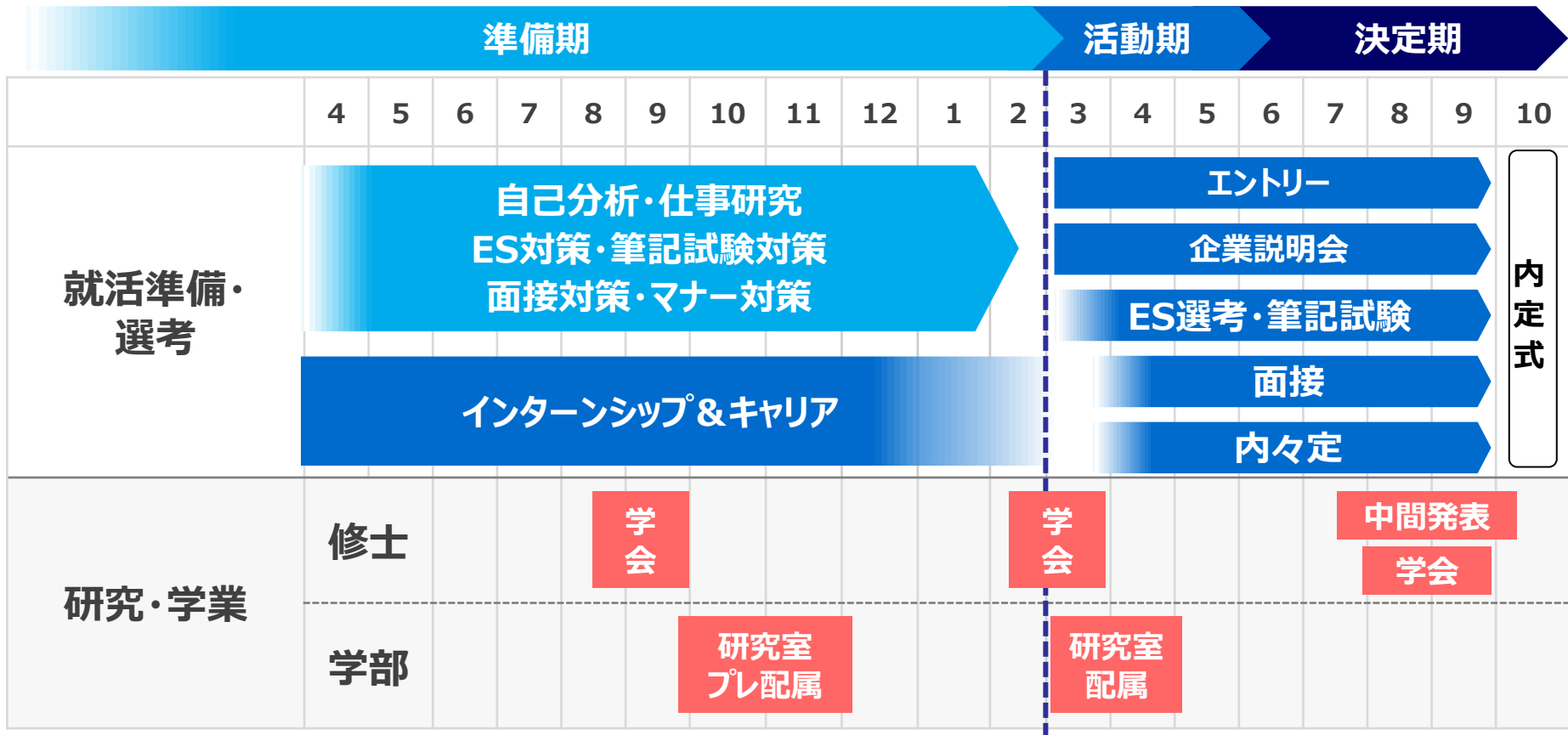
	メリット	デメリット
推薦 応募	<ul style="list-style-type: none">・優遇措置があることも・ライバルが学内に限られる	<ul style="list-style-type: none">・求人が限られる・内定確約ではない・併願・辞退不可
自由 応募	<ul style="list-style-type: none">・選択肢が多い・併願・辞退可能	<ul style="list-style-type: none">・ライバルは全国の学生・後付けで推薦が必要となることがある

推薦応募を希望する学生は、
募集要項や**応募方法**などの詳細を事前に確認しておくこと

2027年卒の就活全体スケジュール (予定)

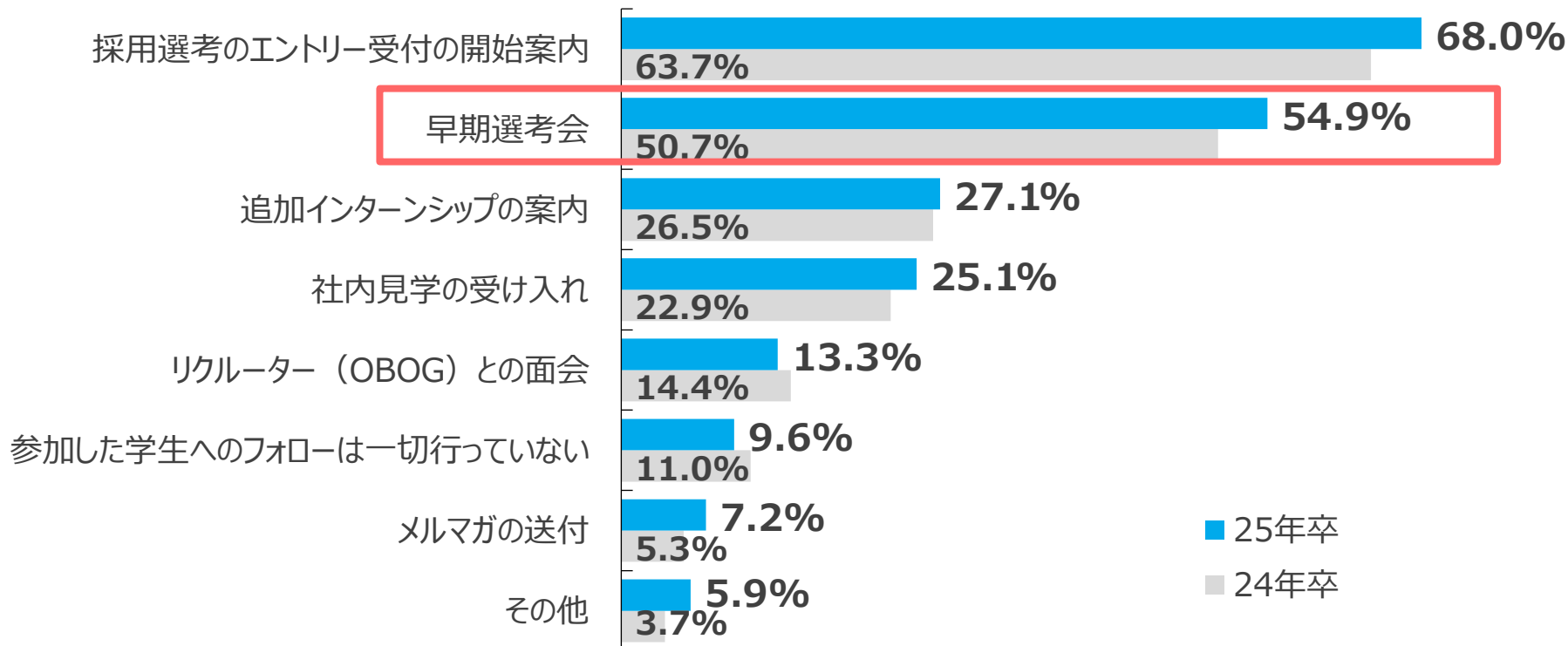
学部3年生/修士1年生

学部4年/修士2年生



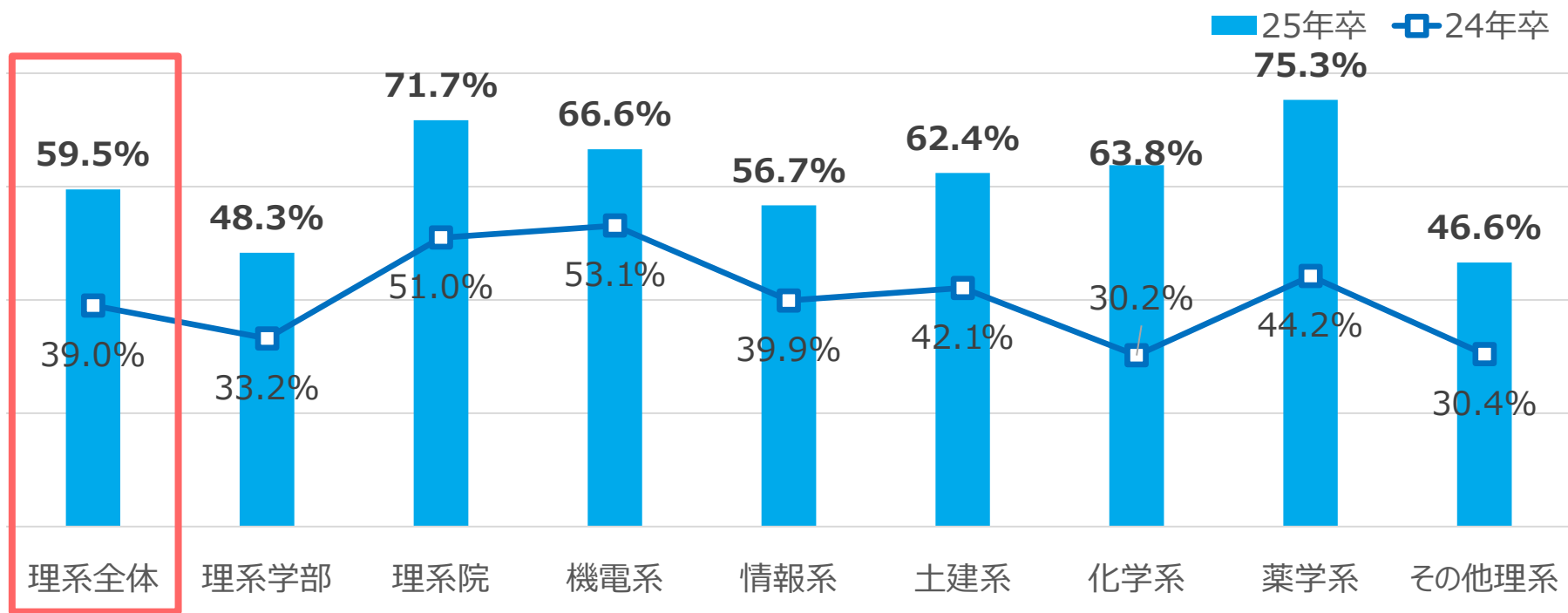
修士2年生 (4年生) 夏頃までの**研究スケジュールを把握して**
比較的余裕をもって就活準備を進めることが重要

インターンシップ&キャリア参加者へのフォローについて実施した項目 n=847



「エントリー受付の開始案内」や「早期選考会」などは増加しており、フォローの幅を広げている企業も多い

内々定率 経年比較 (理系系統別) n=1,529



3月末時点で内々定のある理系学生は**59.5%**、

エントリー社数

エントリーシート
提出社数

面接受験

内々定数



※いずれも8月までの活動量

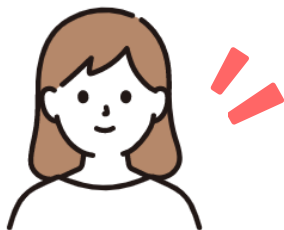
今から気になる企業をリストアップしていこう

自己分析



仕事研究

既に自分の中にあるものを探して
整理・言語化する



例えば…

- これまでの経験
- 長所・短所、好き/嫌いなこと
- 目指したいもの など

知らないことのほうが多くて当たり前！
企業情報を増やす



例えば…

- 業界・業種
- 業務内容、必要な力
- 働き方・福利厚生 など

「自分はどんな人間か？」「自分は何をやりたいのか？」
の2点について考えを深める

さまざまな業界や職種、企業風土の違いを知ったり

実際の業務を企業で体験できたりする機会

“社会に出て働く前”に仕事を知ることができる



プログラム内容の例

就業体験

グループワーク

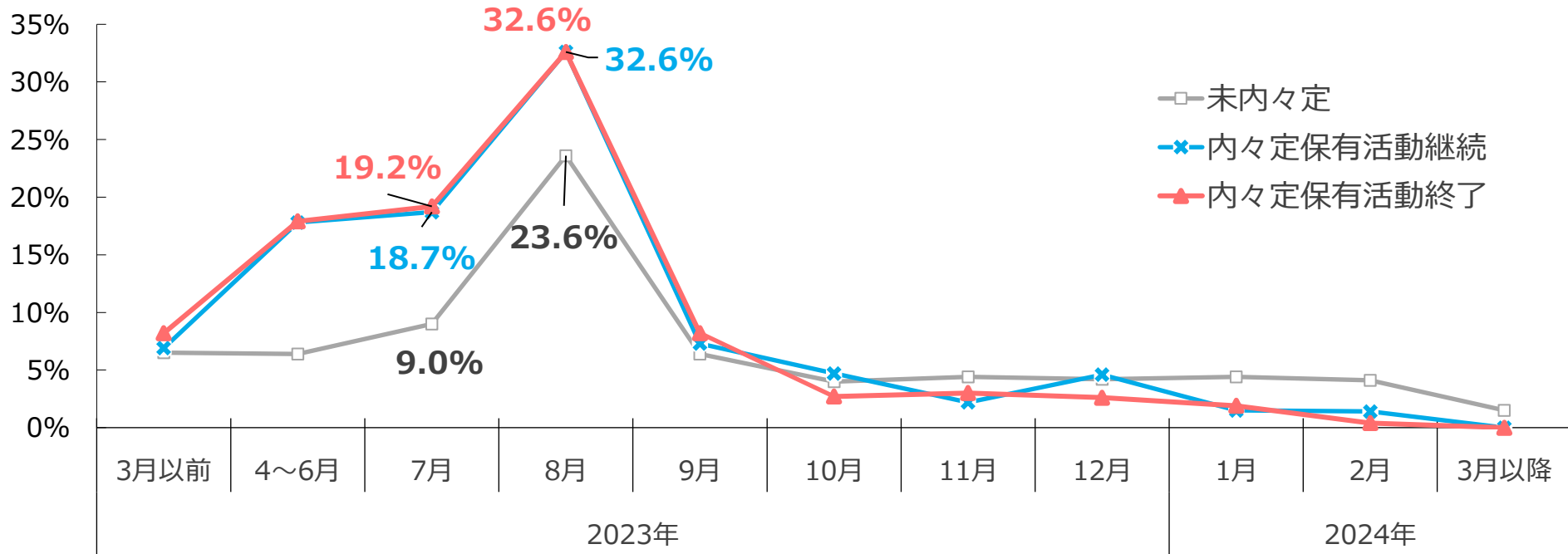
講義・レクチャー

※開催期間中に、複数のパターンを組み合わせる場合もあります

	インターンシップ	仕事体験	オープン・カンパニー& キャリア教育等
概要	就業体験ができる 5日間以上のプログラム	就業体験ができる 短期間プログラム	企業・業界・職種など、 仕事に対する理解促進を 目的としたプログラム
時期	長期休暇期間のみ	休日・長期休暇期間 を含む	制限なし (学業配慮を推奨)
内容	就業体験 (実務型)	就業体験 (実務型・疑似体験型)	業界・職種研究、 社員交流会、 会社・工場見学会 など
対象	2027年卒以上 (大学3年生、修士1年生以上 など)	全学年	全学年
学生情報	2026年3月以降の 採用活動に利用可能	採用活動への 利用不可	採用活動への 利用不可

インターンシップ&キャリアに初めて参加した時期 (理系)

未内々定者 n=623、内々定保有継続者 n=405、内々定保有活動終了 n=474



いずれの学生も8月が最多
ただし、8月までの参加割合には大きく差がある

大手企業のみ狙いで 就活してしまう



大企業や人気企業は、倍率も高くなる。
大手だけにこだわるのではなく、
中小企業にも目線を向けてみましょう。

情報収集不足で 入社後に違和感を覚える



もしも大企業に入社したとしても
その企業が合っているかは人それぞれ。
自分の価値観を明らかにしておきましょう。

最初から選択肢を狭めず、視野を広げて探してみましょう

「大手企業」という言葉には法律上定められた定義はないが、一般的に業界の中で規模や売り上げ、シェア率などが上位にあり、世間的によく知られている企業を指します。

▼中小企業の定義

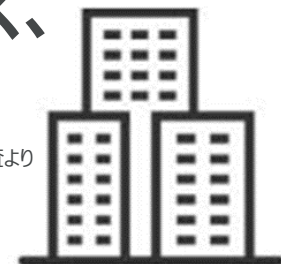
業種	資本金or出資の総額	従業員数
製造業、その他	3億円以下	300人以下
卸売業	1億円以下	100人以下
小売業	5,000万円以下	50人以下
サービス業	5,000万円以下	100人以下

どちらか一方でも
満たす場合
中小企業

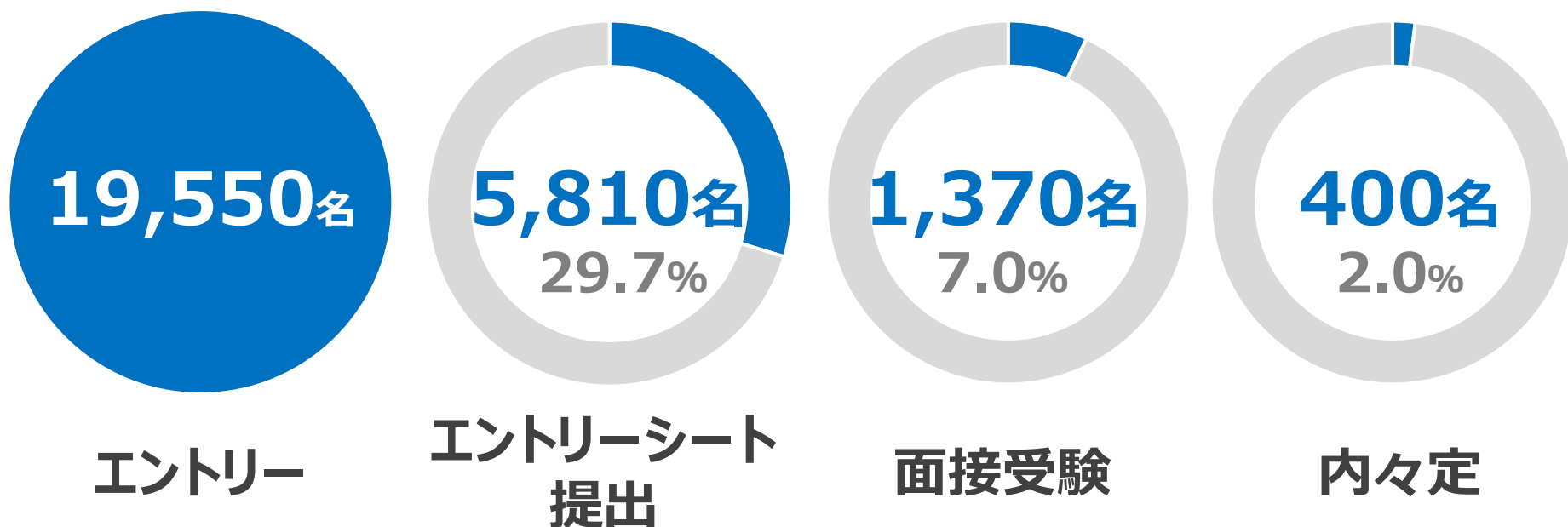
どちらも
満たさない場合
大企業

日本国内に大手企業を占める割合はわずか0.3%しかなく、約9割以上が中小企業である。

※平成28年中小企業庁経済センサス活動調査より



およその応募数と選考倍率イメージ



エントリーから面接まで進んだ学生は **7.0%**

内々定を得る学生はわずか **2.0%**

大企業

▼メリット

- ・福利厚生・休暇制度が充実
- ・将来性や安定性がある
- ・平均給与が高い

▼デメリット

- ・出世のライバルが多い
- ・転職の可能性がある
- ・現場の裁量権が小さい

中小企業

▼メリット

- ・幅広い仕事に携われる
- ・出世しやすい
- ・経営層と近い可能性が高い

▼デメリット

- ・年収にばらつきがある
- ・将来に不安を感じる人もいる
- ・教育制度が整っていないことも

それぞれのメリットとデメリットを理解したうえで
企業研究を進めてみましょう

【視野を広げる方法】 グローバルニッチトップ企業100選

マーケティングや技術開発を通じた差別化戦略により、個々の市場規模は小さいものの、世界シェアが極めて高い製品を持ち、世界のサプライチェーンにおいて「なくてはならない」企業を表彰。



経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ホーム | 経済産業省について | お知らせ | 政策について | 統計 | 申請・お問合せ | English

2020年版グローバルニッチトップ企業100選

2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」を選定しました

2020年6月、経済産業省は、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や、国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部材等の事業を有する優良な企業など113社を、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として選定しました。

また、選定された企業の取組を取録した冊子（選定企業集）を作成し、公表しました。

※平成26年に実施したグローバルニッチトップ（GNT）企業100選はこちら。

- [【ニュースリリース】2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」を選定しました](#)
- [選定企業一覧（日本語）](#)（PDF形式：313KB）
- [選定企業一覧（英語）](#)（PDF形式：99KB）
- [2020年版グローバルニッチトップ企業100選について](#)（PDF形式：660KB）
- [2020年版グローバルニッチトップ企業100選 選定企業集](#)（PDF形式：7,629KB）

＜選定方法＞

- 1.世界シェアと利益の両立
- 2.技術の独自性と自立性
- 3.サプライチェーン上の重要性

＜選定結果＞

- 機械・加工部門（61社）
- 素材・化学部門（24社）
- 電気・電子部門（20社）
- 消費財・その他部門（8社）

選定企業一例

ミクロン精密株式会社 ……心なし研削盤（セントレスグラインダ）

レオン自動機株式会社 ……包あん機（ある素材Aを異なる別な素材Bで包みこむ作業を自動でおこなう機械）

関東精機株式会社 ……オイルマチック（工作機械向け油温自動調整機）